

# イカナゴ情報（2008年5月）

平成 20 年 5 月 29 日，稚内水産試験場資源管理部，Tel 0162-32-7166

宗谷海峡東方海域のイカナゴの資源水準（図1）と2008年5月21～23日に試験調査船北洋丸で実施したイカナゴ漁場における海洋観測結果（図2～4）について報告します。

## 【資源水準】

オッタートロール漁業のCPUEから判断される資源状況は，2004年以降回復傾向にあり，2006年漁期には4年振りに中水準となりました。しかし，2007年には再びCPUEが低下し，**低水準**に戻ったと判断されました。資源水準低下の主な原因としては，例年，漁獲の中心となる2歳魚（2005年生まれ群）の資源加入が少なかったことが考えられます。

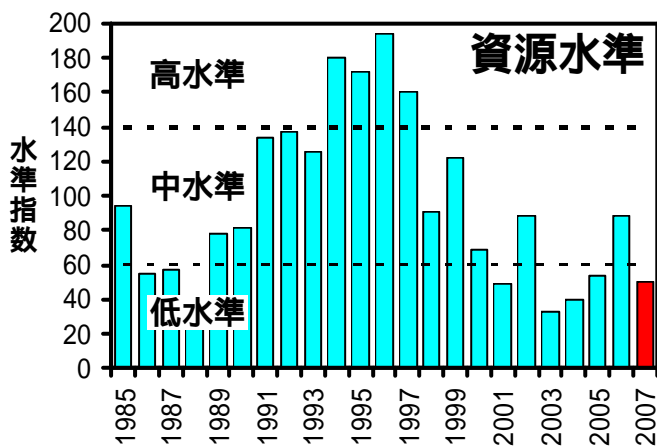


図1 宗谷海峡東方海域のイカナゴの資源水準（トロール漁業のCPUEについて1985～2004年の平均値を100とした場合100±40の範囲を中水準とする）

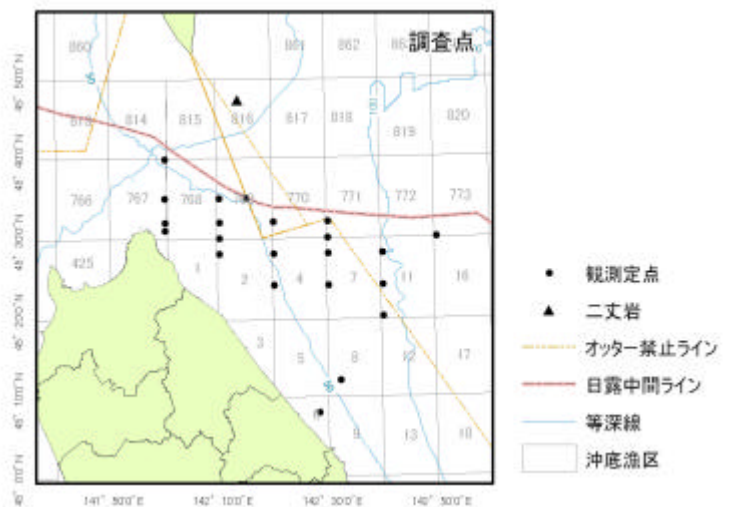


図2 2008年5月21～23日、北洋丸によるイカナゴ漁場海洋観測調査点図

【5月中～下旬の水温分布の状況について】

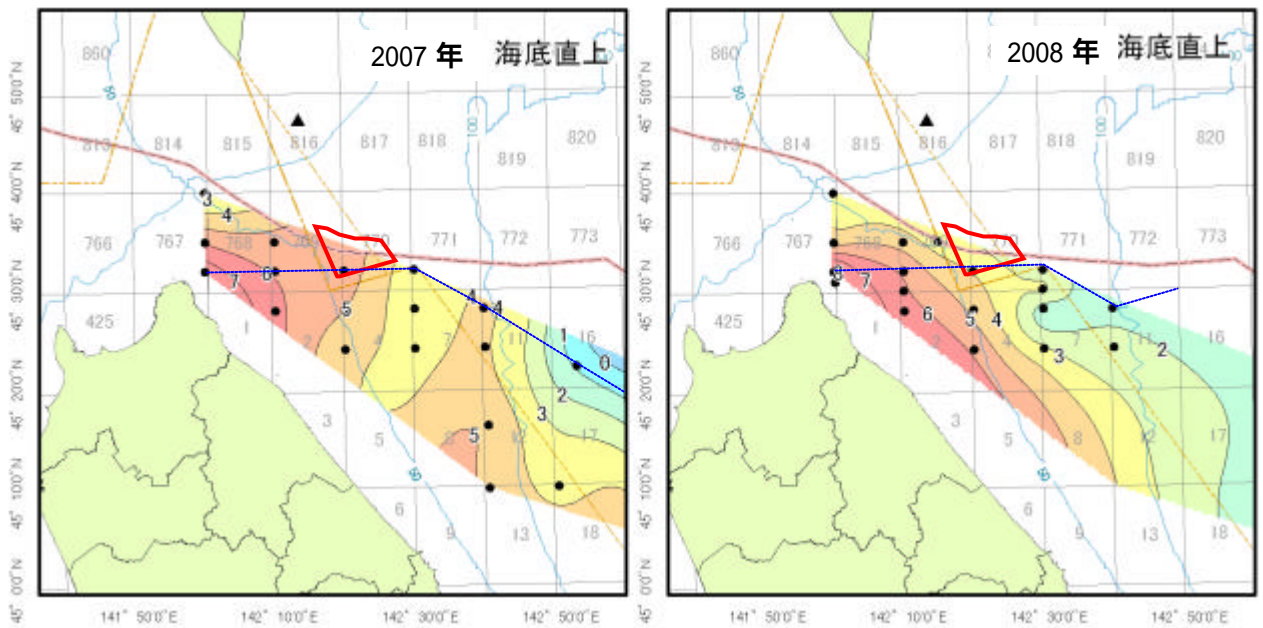


図3 底層水温（左：2007年5月14～15日、右：2008年5月21～23日）  
青い波線は図4の水温鉛直分布図のラインを示す

- ・ 宗谷暖流は岸寄りを流れており，沖合へのイカナゴの主漁場であるポケット海域（769・770海区）の海底直上の水温は3～4台と，昨年（5台）と比べて1～2 低めでした。

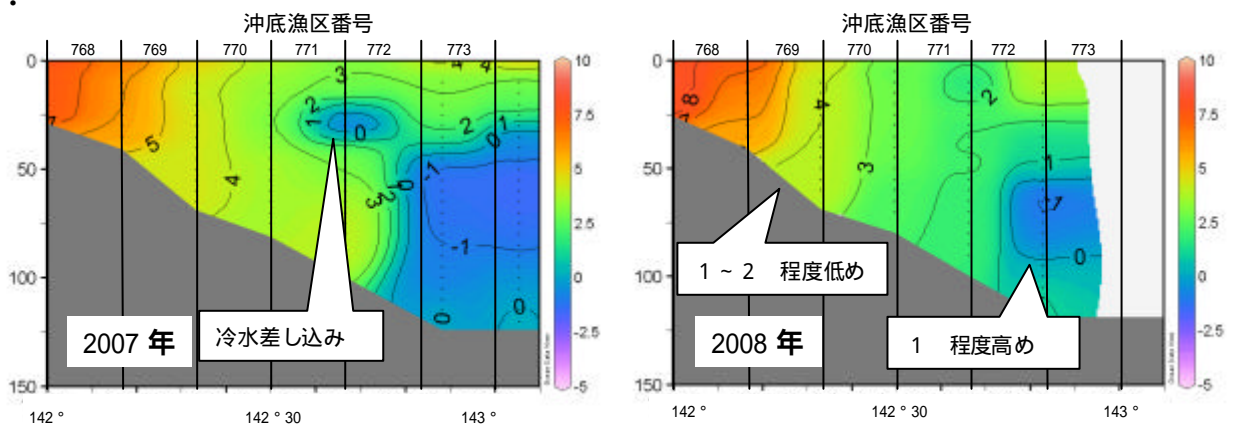


図4 イカナゴ漁場（769海区）を含む北緯45度32分ラインの水温鉛直分布  
（左：2007年5月14～15日、右：2008年5月21～23日）

- ・ イカナゴ漁場（769海区）を含む北緯45度32分ラインの水温鉛直分布をみると，142度40分以西では2007年に比べて1～2 低めでしたが，それより沖側の海底付近は1 程度高めで，2007年に猿払～頓別沖の水深30m付近にみられた冷水の差し込みは，今年度はみられませんでした。